

山梨県衛生公害研究所年報

平成 21 年 第 53 号

Annual Report of
the Yamanashi Institute for Public Health

No.53, 2009

山梨県衛生公害研究所

はじめに

保健衛生、環境衛生の推進につきましては、平素より格段の御協力をいただき深く感謝申し上げます。

この度、平成21年度の調査・研究の業績を「山梨県衛生公害研究所年報第53号」として取りまとめましたのでお届けいたします。

この報告書が県民へのアカウンタビリティ（説明責任）を果たすとともに、当所の試験研究活動等について県民の理解と支持が得られ、これらの成果が各方面で広く活用されますことを期待申し上げますとともに御高覧の上、御意見・御指導をいただければ幸いです。

さて、昨年は、政権交代、新型インフルエンザの大流行、WBC日本連覇、芸能人の薬物汚染、さらに裁判員制度のスタート等話題の多い年でもありました。

特に今般の新型インフルエンザについては、昨年4月の発生以降、健康危機管理上の重大な問題として迅速で正確な検査が求められ、当所においては、体制の整備等に努め、所員が一丸となって取り組んできたところであります。

本年も、引き続き県民の皆様の安心・安全を第一に考え、万全の体制で努めて参ります。

一方、地方衛生研究所や地方環境研究所を取り巻く環境は、様々な要因で厳しい状況下に置かれており、ポテンシャルの低下さえ危惧されております。

このような状況の中、保健衛生・環境保全に係わる課題に対してより科学的な根拠に基づく対策を講じるため、効率的な運用と人的活用を図り、この4月に衛生公害研究所と衛生監視指導センターを組織統合して衛生環境研究所として新たに出発したところであります。

しかしながら、一部においては、施設が分散化されたことにより危機管理体制が疎かにならないよう機能強化に努め、衛生行政の科学的、技術的中核機関として関係部局や保健所などと緊密な連携を図りながら調査研究、試験検査、情報の収集・解析・提供などの役割を果たしていく所存であります。

さらに、この新体制のもと、「暮らしやすさ日本一」の山梨の実現に向け、長期的な展望に立ち科学技術振興施策を推進して参りたいと考えております。

その一方で、団塊世代の大量退職に伴う特殊技術の継承、施設の老朽化など様々な課題を抱えていますが、信頼される研究所を目指し、所員一同努力するとともに可能な限り貢献していきたいと考えておりますので、引き続きよろしくお願い申し上げます。

平成22年 7月

山梨県衛生環境研究所
所長 渡邊伊正

目 次

業 務 報 告

企画情報科、総務スタッフ	1
生活科学部	5
微生物部	7
環境科学部	10

資 料	13
-----	----

学会発表等	28
-------	----

研 究 報 告

甲府盆地の地下水水質と農薬濃度	31
山梨県産ミネラルウォーター中の陽イオン成分の測定結果について	34
当所における食品苦情事例	37
甲府市と韮崎市および峡東地域における蚊類の捕集調査（2009）	42
山梨の名水百選における水質調査について	56
富士五湖の溶存態CODの経年変化	61
山梨県内の河川における原虫類調査（2）	66
山梨県の水環境における従属栄養細菌調査	69
山梨県における光化学オキシダントの特徴	71
近年の山梨県における酸性降水物の降水量について	75
自動車騒音の除外音の処理について	77

